

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

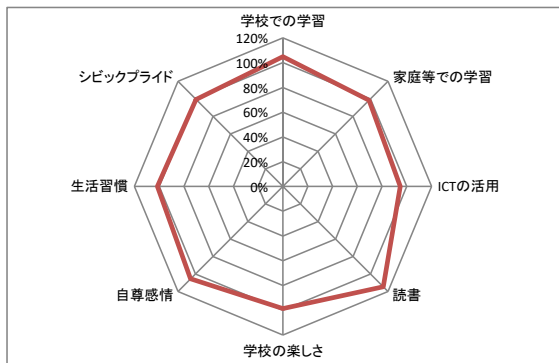
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類とその特徴について理解しているか問う問題では正答率が高い。 無回答率が高い。 漢字を文の中で正しく使うことができるか問う問題に課題がみられる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類とその特徴について理解しているか問う問題。 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるか問う問題。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるか問う問題。 図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する問題。 	

算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に正答率が低い傾向にある。 図形やデータの活用の領域に課題がある。 無回答率が高い。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 正方形の意味や性質について理解しているかを問う、知識・技能の問題。 	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 二次元の表から条件に合う答えを読み取り、選ぶ問題。 台形の意味や性質について理解しているか問う問題 (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかを見る問題。 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「人の役に立つ人間になりたいですか」との問いに対して100%、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して91%の児童が肯定的に回答している。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていますか」の問いに対して100%の児童が肯定的に回答している。今後も児童の自尊感情を維持・向上できるよう取り組んでいく。</p> <p>○学校での学習に対する問いでは、どの教科も肯定的に回答している児童が多い。また、家庭学習も計画的に行っている児童の割合が高かった。しかしながら、基礎的・基本的な内容が定着できていないことが課題である。</p> <p>○「読書は好きですか」の問いに対して肯定的回答率が高かった。図書室の計画的な活用や、委員会活動の取組の成果であるといえる。</p> <p>○朝食を毎日食べている児童の割合は昨年よりも増加している。今後も食育の取組を進め、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○朝の学習の時間を有効活用し、ICTを使ったドリル等で基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、既習事項が定着できていない教科や単元はプリントや宿題なども活用する。

○児童の実態をふまえ、家庭学習の示し方を見直していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○朝食を食べない児童が一定数見られる。引き続き、朝食の大切さを伝えるために、栄養教諭を中心とした食育週間の設定や食育の取組を充実させるとともに、養護教諭を中心とした健康指導も行い、規則正しい生活習慣を身につけさせていくための指導を続ける。

懇談会や学年通信などを活用し、給食の完食などの頑張りを家庭と共有していき、家庭と連携して児童の成長を見守っていく。